



サーバユーティリティ

この章の内容は、次のとおりです。

- [テクニカルサポート データのエクスポート, 1 ページ](#)
- [CIMC の再起動, 2 ページ](#)
- [BIOS CMOS のクリア, 3 ページ](#)
- [破損した BIOS のリカバリ, 4 ページ](#)
- [CIMC の出荷時デフォルトへのリセット, 5 ページ](#)
- [CIMC 設定のエクスポートとインポート, 6 ページ](#)

テクニカル サポート データのエクスポート

このタスクは、Cisco Technical Assistance Center (TAC) から要求された場合に実行します。このユーティリティは、TAC が技術上の問題をトラブルシューティングおよび解決する際に役立つ設定情報、ログ、および診断データが含まれる要約レポートを作成します。



重要

ファームウェアまたは BIOS の更新が進行中の場合は、それらのタスクが完了するまで、テクニカル サポート データをエクスポートしないでください。

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	Server# scope cimc	CIMC コマンド モードを開始します。
ステップ 2	Server /cimc # scope tech-support	テクニカル サポート コマンド モードを開始します。

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 3	Server /cimc/tech-support # set tftp-ip ip-address	テクニカル サポート データ ファイルを保存する必要がある TFTP サーバの IP アドレスを指定します。
ステップ 4	Server /cimc/tech-support # set path path/filename	サーバでサポート データを保存する必要があるファイルの名前を指定します。この名前を入力するときは、ファイルの相対パスを、TFTP ツリーの最上位から目的の場所まで含めてください。 ヒント システムがファイル名を自動生成するには default.tar.gz というファイル名を入力します。
ステップ 5	Server /cimc/tech-support # commit	トランザクションをシステムの設定にコミットします。
ステップ 6	Server /cimc/tech-support # start	TFTP サーバへのデータ ファイルの転送を開始します。
ステップ 7	Server /cimc/tech-support # cancel	(任意) TFTP サーバへのデータ ファイルの転送をキャンセルします。

次に、テクニカル サポート データ ファイルを作成し、そのファイルを TFTP サーバに転送する例を示します。

```
Server# scope cimc
Server /cimc # scope tech-support
Server /cimc/tech-support # set tftp-ip 192.0.20.41
Server /cimc/tech-support *# set path /user/user1/default.tar.gz
Server /cimc/tech-support *# commit
Server /cimc/tech-support # start
Tech Support upload started.
```

次の作業

生成されたレポート ファイルを Cisco TAC に提供します。

CIMC の再起動

現在実行されているファームウェアで問題が発生した場合など、非常に珍しいケースですが、サーバのトラブルシューティング時に、CIMC の再起動が必要になることがあります。この手順は、通常のサーバメンテナンスには含まれません。CIMC を再起動した後にログオフすると、CIMC は数分間使用できません。



- (注) サーバが電源投入時自己診断テスト (POST) を実行しているとき、または Extensible Firmware Interface (EFI) シェルを操作しているときに CIMC を再起動すると、サーバの電源は、CIMC の再起動が完了するまでオフになります。

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	Server# scope cimc	CIMC コマンドモードを開始します。
ステップ 2	Server /cimc # reboot	CIMC を再起動します。

次に、CIMC を再起動する例を示します。

```
Server# scope cimc
Server /cimc # reboot
```

BIOS CMOS のクリア

非常に珍しいケースですが、サーバのトラブルシューティング時に、サーバの BIOS CMOS メモリのクリアが必要になることがあります。この手順は、通常のサーバメンテナンスには含まれません。

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	Server# scope bios	bios コマンドモードを開始します。
ステップ 2	Server /bios # clear-cmos	確認を求めるプロンプトの後に、CMOS メモリがクリアされます。

次に、BIOS CMOS メモリをクリアする例を示します。

```
Server# scope bios
Server /bios # clear-cmos
```

```
This operation will clear the BIOS CMOS.
Note: Server should be in powered off state to clear CMOS.
Continue?[y|n] y
```

```
Server /bios #
```

破損した BIOS のリカバリ



(注) この手順は、一部のサーバモデルでは使用できません。

破損した BIOS のリカバリには、この手順の他に 3 種類の方法が存在します。

- Cisco Host Upgrade Utility (HUU) を使用します。これは推奨される方法です。
- CIMC GUI インターフェイスを使用します。
- サーバのマザーボード上でハードウェアジャンパの BIOS リカバリ機能を使用する（お使いのサーバモデルでサポートされている場合）。手順については、お使いのサーバモデルに対応した『Cisco UCS Server Installation and Service Guide』を参照してください。

はじめる前に

- 破損した BIOS を回復するには、admin としてログインしている必要があります。
- BIOS リカバリ ISO イメージを準備します。BIOS リカバリ ISO イメージは、ファームウェア配布パッケージの Recovery フォルダ内にあります。
- リカバリ手順の最後にサーバの電源が再投入されるため、サーバのダウンタイムをスケジュール設定します。

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	Server# scope bios	bios コマンドモードを開始します。
ステップ 2	Server# recover	BIOS リカバリ イメージのロードに関するダイアログを起動します。

次に、破損した BIOS を回復する例を示します。

```
Server# scope bios
Server /bios # recover
This operation will automatically power on the server to perform BIOS FW recovery.
Continue?[y|N]y
```

次の作業

電源を再投入するか、サーバをリセットします。

CIMC の出荷時デフォルトへのリセット

現在実行されているファームウェアで問題が発生した場合など、非常に珍しいケースですが、サーバのトラブルシューティング時に、CIMC の出荷時デフォルトへのリセットが必要になることがあります。これを行うと、ユーザが設定可能なすべての設定がリセットされます。

この手順は、通常のサーバメンテナンスには含まれません。CIMC をリセットした後は、ログオフしてから再びログインする必要があります。また、接続が失われ、ネットワーク設定を再び指定する必要がある場合もあります。

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	Server# scope cimc	CIMC コマンド モードを開始します。
ステップ 2	Server /cimc # factory-default	確認プロンプトの後に、CIMC が出荷時デフォルトにリセットされます。

CIMC の出荷時デフォルトには、次の条件が含まれます。

- CIMC CLI へのアクセス用に、SSH がイネーブルになっている。Telnet はディセーブルになります。
- CIMC GUI へのアクセス用に、HTTPS がイネーブルになっている。
- 単一のユーザ アカウントが存在している（ユーザ名は **admin**、パスワードは **password**）。
- 管理ポートで DHCP がイネーブルになっている。
- ブート順が EFI、CDROM、PXE（LoM を使用）、FDD、HDD になっている。
- KVM と vMedia がイネーブルになっている。
- USB がイネーブルになっている。
- SoL がディセーブルになっている。

次に、CIMC を出荷時デフォルトにリセットする例を示します。

```
Server# scope cimc
Server /cimc # factory-default
This operation will reset the CIMC configuration to factory default.
All your configuration will be lost.
Continue?[y|N]
```

CIMC 設定のエクスポートとインポート

CIMC 設定のエクスポートとインポート

CIMC 設定のバックアップを実行するには、システム設定のスナップショットを作成し、生成された CIMC 設定ファイルをネットワーク上の場所にエクスポートします。エクスポート操作で保存されるのは、管理プレーンからの情報だけです。サーバ上のデータはバックアップされません。ユーザアカウントやサーバ証明書など、機密情報の設定はエクスポートされません。

エクスポートされた CIMC 設定ファイルは、同じシステムで復元したり、別の CIMC システムにインポートしたりできます。ただし、インポートするシステムのソフトウェアバージョンとエクスポートするシステムのソフトウェアバージョンが同じであるか、両者の設定に互換性があることが前提となります。設定ファイルを設定テンプレートとして他のシステムにインポートする場合は、IP アドレスやホスト名などシステム固有の設定を変更する必要があります。インポート操作によって情報が変更されるのは、管理プレーンだけです。

CIMC 設定ファイルは XML テキストファイルで、その構造と要素は CIMC コマンドモードに対応しています。

エクスポートまたはインポート操作を実行する場合は、次のガイドラインを考慮してください。

- エクスポートまたはインポートは、システムがアップ状態で、稼働しているときに実行できます。エクスポート操作によるサーバまたはネットワークトラフィックへの影響はありませんが、インポート操作によって IP アドレスなどが変更されると、トラフィックが中断されたりサーバがリブートされたりすることがあります。
- エクスポートとインポートを同時に実行することはできません。

CIMC 設定のエクスポート



(注) セキュリティ上の理由から、この操作でユーザアカウントやサーバ証明書をエクスポートしないでください。



重要 ファームウェアまたは BIOS の更新が進行中の場合は、それらのタスクが完了するまで、CIMC 設定をエクスポートしないでください。

はじめる前に

バックアップ TFTP サーバの IP アドレスを取得します。

コンフィギュレーションファイルをインポートするときに、SNMP 設定情報を復元するオプションが必要な場合は、コンフィギュレーションファイルを作成する前に、このサーバで SNMP がイ

ネーブルであることを確認します。コンフィギュレーションのエクスポート時に SNMP がディセーブルであると、ファイルをインポートしたときに CIMC によって SNMP 値が適用されません。

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	Server# scope cimc	CIMC コマンド モードを開始します。
ステップ 2	Server /cimc # scope import-export	import-export コマンド モードを開始します。
ステップ 3	Server /cimc/import-export # export-config tftp-ip-address path-and-filename	バックアップ操作を開始します。コンフィギュレーション ファイルは、指定した IP アドレスにある TFTP サーバ上に指定したパスとファイル名で保存されます。

エクスポート操作が正常に完了したかどうかを確認するには、**show detail** コマンドを使用します。操作を中止するには、CTRL+C を入力します。

次に、CIMC コンフィギュレーション ファイルをバックアップする例を示します。

```
Server# scope cimc
Server /cimc # scope import-export
Server /cimc/import-export # export-config 192.0.2.34 /ucs/backups/cimc5.xml
Export config started. Please check the status using "show detail".
Server /cimc/import-export # show detail
Import Export:
  Operation: EXPORT
  Status: COMPLETED
  Error Code: 100 (No Error)
  Diagnostic Message: NONE

Server /cimc/import-export #
```

CIMC 設定のインポート



重要

ファームウェアまたは BIOS の更新が進行中の場合は、それらのタスクが完了するまで、CIMC 設定をインポートしないでください。

はじめる前に

コンフィギュレーション ファイルをインポートするときに、SNMP 設定情報を復元したい場合は、インポートを実行する前に、このサーバで SNMP がディセーブルであることを確認します。インポートを実行するときに SNMP がイネーブルであると、CIMC は現在の値をコンフィギュレーション ファイルに保存されている値で上書きしません。

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	Server# scope cimc	CIMC コマンド モードを開始します。
ステップ 2	Server /cimc # scope import-export	import-export コマンド モードを開始します。
ステップ 3	Server /cimc/import-export # import-config <i>ftp-ip-address</i> <i>path-and-filename</i>	インポート操作を開始します。指定した IP アドレスにある TFTP サーバ上の、指定したパスとファイル名のコンフィギュレーションファイルがインポートされます。

インポート操作が正常に完了したかどうかを確認するには、**show detail** コマンドを使用します。操作を中止するには、CTRL+C を入力します。

次に、CIMC コンフィギュレーションをインポートする方法を示します。

```
Server# scope cimc
Server /cimc # scope import-export
Server /cimc/import-export # import-config 192.0.2.34 /ucs/backups/cimc5.xml
Import config started. Please check the status using "show detail".
Server /cimc/import-export #
```